

# 東北ブロックの社会資本の重点整備方針

(原 案)

[要旨]

[黒文字版]

本整備方針における指標・主要事業については調整中であり、今後変更の可能性があります。

平成21年5月13日時点

## 目次

I 東北ブロックの現状と課題	1
1. 東北ブロックの特徴	1
2. 東北ブロックにおける近年の状況変化	1
(1) 人口減少と急激な少子高齢化	1
(2) 多発する自然災害	1
(3) 中心市街地の空洞化	2
(4) 新たな産業経済活動の兆し	2
(5) 情報通信サービスの格差	2
(6) 伸び悩む観光客数	2
(7) 社会資本ストックの老朽化	2
3. 東北ブロックにおけるこれまでの取り組み	3
(1) 「強い東北の創造」に係る取り組み	3
(2) 「安全で安心できる地域づくり」に係る取り組み	4
(3) 「魅力ある都市づくり」に係る取り組み	5
(4) 「美しい東北の実現」に係る取り組み	5
4. 東北ブロックで今後取り組むべき課題	6
(1) 広大な国土、脊梁山脈、豪雪地帯の克服	6
(2) 産業の活性化、競争力ある産業の振興	6
(3) 国際交流・連携の強化	6
(4) 自然災害に対する安全・安心の確保	6
(5) 都市と農山漁村の共生	6
(6) 豊かな自然を生かした地域形成	6
II 東北ブロックの目指すべき将来の姿	7
III 東北ブロックにおける社会資本の重点事項	8
1. 地方重点戦略と地方重点目標	8
2. 重点目標達成のための取り組み	9

前「東北ブロックの社会資本の重点整備方針」(平成 16 年6月)では、青森、岩手、宮城、秋田、山形、福島の6県を対象としていたが、本重点整備方針では、広域地方計画に倣い、青森、岩手、宮城、秋田、山形、福島の6県に新潟を加えた7県を東北ブロックとしている。

# 1 東北ブロックの現状と課題

## 1. 東北ブロックの特徴

### ① 広大な面積と豊かな自然環境

東北ブロックは本州の北部に位置し、国土全体の約2割を占める広大な面積を有し、面積の70%が森林であり、起伏に富んだ地形で、都市間距離が長い。また、南北に連なる脊梁山脈によって地形的に地域が分断され、面積の約85%が豪雪地帯等となっているなど、厳しい自然条件となっており、地域間交流や産業、人々の暮らしに大きな影響を与えている。

しかしながら、四季折々の変化を楽しめる美しい自然資源に恵まれているうえ、水資源も豊富である。また、環日本海と環太平洋の2つの交流圏を繋ぎうる特長を有するとともに、他地域に比べ中国東北部やロシアに近く、国際物流等の拠点形成の上で有利な位置にある。

自然災害については、東北ブロック周辺では地震発生回数が多いほか、津波や風水害、土砂災害、火山活動、豪雪等の被害を受けている。

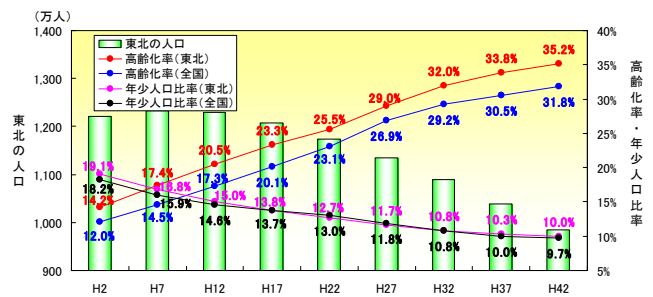
### ② 食料とエネルギーの高いポテンシャル

産業面では、第1次産業への取組が活発である。米をはじめ、農畜産品、林産品や水産品等が高い全国シェアを占めるとともに、各県の食糧自給率は全国上位の水準であり、四季を通じて、安全で多様な食材を全国に供給するとともに、立地する発電所の総出力は全国で最も高く、我が国の安定的食料供給と首都圏への電力供給に大きく貢献している。

## 2. 東北ブロックにおける近年の状況変化

### (1) 人口減少と急激な少子高齢化

東北ブロックでは、平成8年をピークに人口が減少に転じており、高齢化率は平成17年時点で約23%と、全国平均を上回っている。また、平成42年には高齢化率が約35%になると見込まれており、将来的には、集落の消滅危機やコミュニティの崩壊、担い手の不足や減反政策等による耕作放棄地の増加、里地里山の荒廃等、様々な問題が一層深刻化する恐れがある。



出典：国立社会保障・人口問題研究所資料  
図1 東北ブロックの人口と高齢化率の推移

### (2) 多発する自然災害

東北ブロックでは、岩手・宮城内陸地震等の大規模地震や豪雨、豪雪等、多くの自然災害が発生し、甚大な被害を受けており、過去5年間の総被害額は、東北ブロック全体で1兆円以上となっている。東北ブロックにおいて、100年後には、降水量が現在よりも1.22倍に増加すると予測されるなど、今後は、地球温暖化に伴う気候変動により災害リスクの高まり



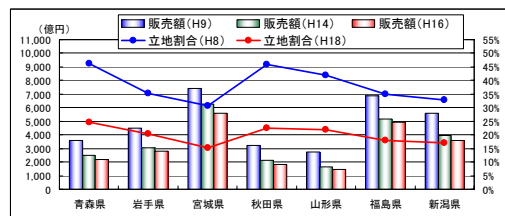
図2 岩手・宮城内陸地震(H20.6)における被害状況(祭時大橋)

1 が予想されている。

2 また、仙台湾南部海岸等沿岸部では、海岸侵食の進行によって、砂浜の持つ防災効果  
3 の低下、自然環境や海岸景観に影響が生じている。

### 4 (3) 中心市街地の空洞化

5 これまでの東北ブロックの都市部では、大型小売  
6 店や公共施設の郊外立地による都市機能の拡散や  
7 モータリゼーションの進展、居住人口の減少、中心市  
8 街地の商業地区が顧客・住民ニーズに十分対応でき  
9 ていないこと等により、中心市街地における商店街の  
10 「シャッター通り化」や商品販売額の減少等、空洞化  
11 を招き、まちの賑わい喪失に繋がっている。



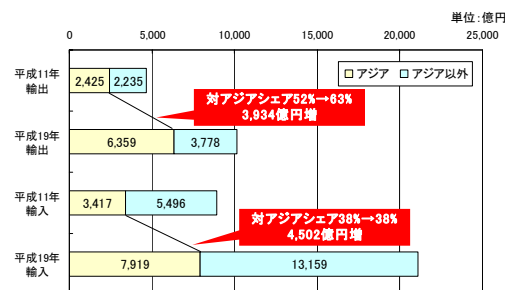
出典：経済産業省「商業統計調査」、  
東洋経済新報社「全国大型小売店総覧」

図3 中心市街地における大型小売店の  
立地割合と年間商品販売額の推移

### 14 (4) 新たな産業経済活動の兆し

15 東北ブロックの実質経済成長率の5年平均値(平成  
16 13年～平成17年)は0.9%と全国よりも低い。

17 また、東北ブロックの輸出入額の全国シェアは約1～  
18 3%に止まっているほか、自地域内の港湾でコンテナ  
19 貨物を取り扱う割合が全国平均に比べて低いが、経済  
20 成長を続けるアジア諸国等との貿易量の増加や、自動  
21 車及び電子機器製造関連企業の高速道路沿線への  
22 進出表明等、新たな産業経済活動の兆しがみられる。

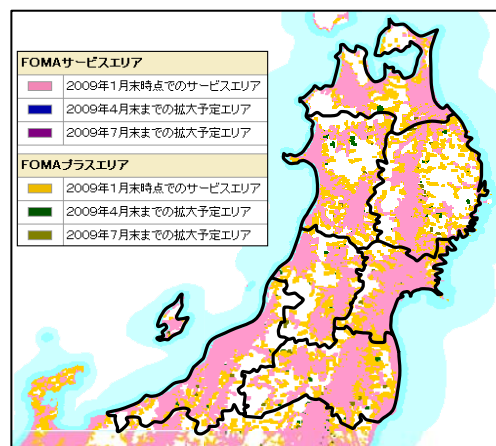


出典：財務省「貿易統計」

図4 東北ブロックにおける  
輸出入相手国の構成

### 24 (5) 情報通信サービスの格差

25 情報通信技術の飛躍的な発達により、行政システムや  
26 防災・交通等の管理システムだけではなく、医療面や教  
27 育面等においても新たな展開がみられるが、東北ブロッ  
28 クのブロードバンドサービスに係る世帯普及率は44%で  
29 全国値より低く、携帯電話の不感地帯も総面積の約6割  
30 と多く存在している。



出典：NTTドコモHP

図5 携帯電話(FOMA)のサービスエリア

### 32 (6) 伸び悩む観光客数

33 東北ブロックの観光入り込み客数は概ね増加傾向で推移しているものの、その伸びは全  
34 国よりも小さく、東北ブロックを訪れる外国人観光客も非常に少ない。

### 36 (7) 社会資本ストックの老朽化

37 東北ブロックの社会資本ストックの多くは、高度経済成長期に  
38 集中投資し建設されたため、建設後30年を経過し、社会資本ス  
39 トックの老朽化が進んでいる。



図6 本荘大橋斜材破断

### 3. 東北ブロックにおけるこれまでの取り組み

前「東北ブロックの社会資本の重点整備方針」(平成16年6月)では、4つの重点戦略のもと8つの重点目標を掲げ、事業の重点化により、社会資本整備に取り組んできたが、政府の公共事業費削減の方針に伴う予算制約等により、目標とした72指標のうち、34指標が達成されなかった。

高速道路をはじめとした格子状骨格道路ネットワーク等の整備の推進や高速交通機関相互の連結、港湾空港等ゲートウェイ機能の強化等が進められ、東北ブロックの地域づくりに大きく貢献してきた。

しかし、沿岸部や東北ブロック北部にはミッシングリンクが多く存在しており、生産・消費される物資及び旅客等々の流動を域外の港湾・空港へ依存している状況は依然として高いなど、国内他地域や国外との競争基盤としての社会資本整備はいまだ不十分である。

また、頻発している自然災害への対応が遅れており、日常の安全・安心の確保に向けた、災害に強い総合的な地域づくりに取り組むことが必要となっている。

#### (1) 「強い東北の創造」に係る取り組み

根幹的な社会基盤である道路については、高規格幹線道路等で構成される格子状骨格道路ネットワーク等の整備が進められ、都市間所要時間の短縮やカバー圏域拡大、港湾・空港等の物流拠点との連結等の物流機能の充実等に寄与している。

例えば、東北横断自動車道釜石秋田線の仙人峠道路(L=18.4km)や三陸縦貫自動車道・矢本石巻道路・桃生登米道路の一部区間(L=11.6km)の開通により、“高速道路まで1時間で行ける人口の割合”は97%(H14)から99%(H19)に向上した。また、仙台駅と仙台空港を連結する仙台空港アクセス鉄道の開通により、“公共交通機関により国管理空港及び特定地方管理空港(旧第二種空港)へ1時間でアクセスできる人口”は108万人(H14)から216万人(H19)に大幅に向上している。

物流面では東北ブロック発着国際海上コンテナの多くが京浜港を經由しているとともに、大型貨物船に対応可能な岸壁の不足や、バース不足等による沖待ちの発生の

ほか、日本海港湾においては冬季風浪による荷役障害が発生している状況にあり、産業競争力確保のため基盤整備が行われてきた。

例えば、石巻港雲雀野地区中央埠頭第2バースの完成により、現在、石炭輸送の主流



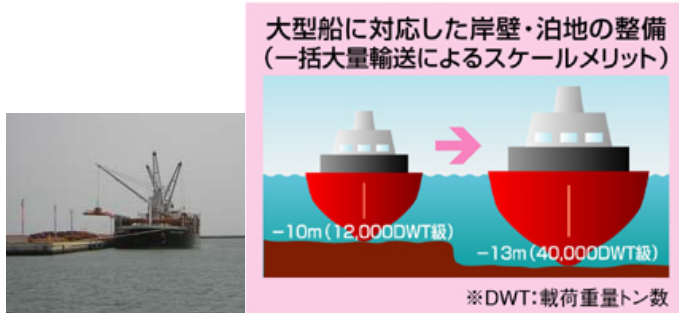
図7 東北ブロックの高速交通ネットワークの整備状況



図8 東北横断自動車道釜石秋田線(仙人峠道路)の開通(H19.3.18)

1 となっている“40,000DWT<sup>注</sup>以上の船舶が貨物を満載し接岸できる岸壁の充足率”が 46%  
 2 (H14)から 49%(H19)に向上し、東北ブロック全体での港湾取扱貨物量も順調な伸びを示  
 3 すなど、物流コスト低減等に関する効果が現れている。

4 また、河川・道路管理用に敷設されている光ファイバーの一部の民間事業者への開放  
 5 等も進められている。



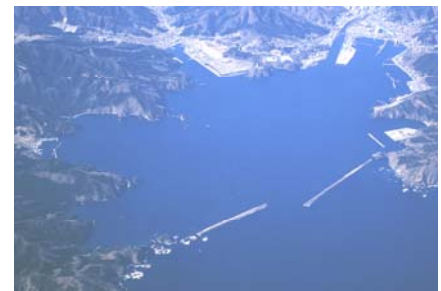
13 図9 石巻港雲雀野地区中央埠頭第2バース  
 14 (-13m) (H17 完成)



13 図10 仙台空港アクセス鉄道の開通 (H19.3.18)

15 (2) 「安全で安心できる地域づくり」に係る取り組み

16 近年、頻発する豪雨や洪水氾濫、土砂災害等自然  
 17 災害に対し、平成14年洪水で 965 戸もの浸水被害が  
 18 発生した北上川支川砂鉄川の河川改修が平成 17 年  
 19 度に完成、北上川・一関市街地を守る一関遊水池周  
 20 囲堤が平成 18 年度に概成、さらに旧北上川への洪水  
 21 分派量をゼロとする旧北上川分流堰が平成 19 年度に  
 22 完成、固定堰から可動堰へと流下能力向上を図る雄  
 23 物川大久保堰改築事業が平成 17 年度に完成、阿武隈川  
 24 の治水対策等に寄与する摺上川ダムが平成17年度に  
 25 完成するなど、着実に事業を進め、洪水が発生した  
 26 場合の床上浸水解消戸数を 22,300 戸に増やすなど治  
 27 水安全度の向上を進めている。また、阿武隈川水系  
 28 荒川遊砂地大暗渠堰堤などの砂防・地すべり対策事  
 29 業の実施により、土砂災害から保全される戸数は  
 30 65,000 戸 (H14)から 79,000 戸 (H19)に増加を  
 31 図っており、目標である 74,000 戸を超過するもの  
 32 となっている。



32 図11 釜石港湾口の津波防波堤  
 33 (H20 年度完成)

34 東北ブロックは地震・津波の常襲地帯であり、尊い人命  
 35 と貴重な財産を護るため、恒久的な防護施設として、津  
 36 波防波堤の整備が進められている。

37 日常生活への雪の影響に対しては、除排雪による労働  
 38 負担の軽減に寄与する消流雪用水の導入事業が進めら  
 39 れてきているが、これら事業に対する要望は未だ多く、  
 今後とも事業を推進していく必要がある。

40 また、冬期における安全かつ円滑な交通の確保に向け  
 41 た除排雪の実施、消融雪施設の整備等により、“冬期に歩  
 42 行空間が確保されている割合”は 77% (H14)から 82%  
 43 (H19)に増加し、目標が達成されている。



44 図12 高速道路の整備と救急車  
 45 搬出路の設置による  
 46 高度医療施設へのアクセス改善

注 DWT: 載荷重量トン数 (Dead Weight Tonnage) の略で、積載し得る貨物の最大重量をトン単位で表した数。

1 一方、急速な勢いで進行している高齢化のなかで、救急医療に対するニーズも高まっ  
 2 ているが、高速道路等の整備とともに、高速道路に救急車専用の退出路が平成14年以降7  
 3 箇所設置されるなど、救急医療施設へのアクセス改善等も進められている。

4 また、高齢者等の交通事故対策が進められているほか、高齢者や障害者が安心して鉄  
 5 道駅等を利用できるよう、エレベーターの整備などバリアフリー化が進められている。

6  
 7 **(3) 「魅力ある都市づくり」に係る取り組み**

8 衰退する中心市街地問題に対応して、中心市街地を魅  
 9 力あるものにするために、各種都市基盤整備に取り組み、  
 10 街路整備は順調に進められ、“市街地における都市計画  
 11 道路の整備率”が55%(H14)から59%(H19)に増加し、目  
 12 標が達成されている。

13 県庁所在地としては有数の豪雪都市である青森市では、  
 14 コンパクトシティを目指した中心市街地活性化基本計画が、  
 15 富山市とともに全国で最初に認定(平成19年2月)された。その後、東北ブロックの各都市  
 16 で認定され、街なか居住の推進をはじめとする中心市街地活性化に向けた取り組みが進め  
 17 られている。

18 また、都市部においては、快適な生活環境や都市環境の形成、水辺の潤いある親水空  
 19 間の整備も進められてきている。

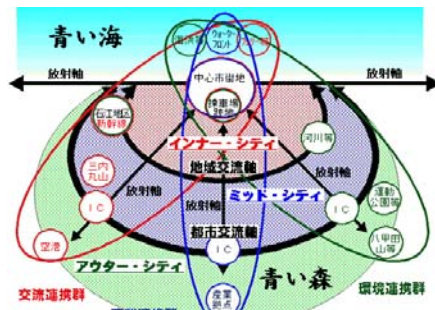


図13 コンパクトシティを目指した青森市の都市構造

20  
 21 **(4) 「美しい東北の実現」に係る取り組み**

22 東北ブロックが有する豊かな自然、美しい景観、  
 23 歴史文化の保全に配慮して、身近に自然と触れあ  
 24 える河川・港湾・海岸等の空間や公園・緑地、海域  
 25 環境の整備が進められてきている。

26 平成16年に奥州市衣川地区の堤防で見え  
 27 した接待館遺跡が奥州藤原氏時代の重要な歴史遺  
 28 産であることが判明したことを受け、遺跡を保存す  
 29 るため、堤防計画ルートの変更が行われるなど、歴  
 30 史遺産の保全に配慮した治水対策が行われた。

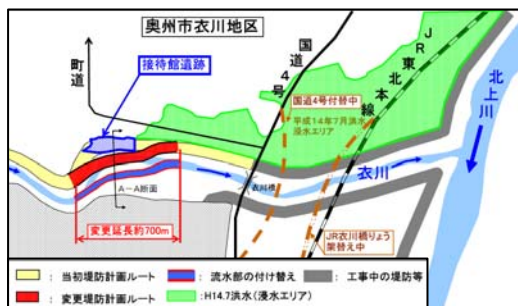


図14 歴史遺産の保全に配慮した堤防ルートの変更

31 資源の有効活用を目指した“循環型社会の構築”への取り組みについては、建設廃棄  
 32 物の発生抑制や廃棄物の再資源化、建設時の発生土の有効利用等を徹底したリサイクル  
 33 を促進するため、八戸港、釜石港、酒田港に加えて能代港がリサイクルポートに指定され  
 34 るなど、拠点整備にも取り組まれており、“重要港湾における廃棄物リサイクル取扱量”は、  
 35 198万トン(H14)から250万トン(H19)に増加し、目標が達成されている。

#### 4. 東北ブロックで今後取り組むべき課題

##### (1) 広大な国土、脊梁山脈、豪雪地帯の克服

東北ブロックは、日本全体の約2割を占める広大な国土を有しているが、都市間距離が長く、南北に連なる脊梁山脈によって地形的に地域が分断されている。地域間連携のためには、“距離”、“峠”の克服が必要であるが、県境部や沿岸部の高速道路等には多くのミッシングリンク（ネットワークの欠落区間）がある。

また、面積の約85%が豪雪地帯であり、冬期の人々の暮らしや産業等に大きな影響を及ぼしている。

##### (2) 産業の活性化、競争力ある産業の振興

東北ブロックは、米をはじめとする安全安心で高品質な農産物やエネルギーの供給に大きく貢献しているが、広い国土に生産や物流等の産業拠点が散在していることに加え、若者の圏域外への就職の増加等、産業の担い手としての人的資源の減少や流出が著しい状況にある。

また、ものづくり産業の集積が進んでいるが、産業活動を支える交通・情報ネットワークの整備は不十分な状況にある。

##### (3) 国際交流・連携の強化

東北ブロックは、人流・物流ともに他地域の港湾・空港を多く利用している。

特に、物流においては、東北圏内の港湾の貿易額は5年で倍以上に増加しているが、圏域内からの輸出入のバランスを欠いていることなど、圏域内で生産消費される国際コンテナ貨物を圏域内で扱う割合が他地域に比べて低いこと等から、効率的な輸送を妨げている。

##### (4) 自然災害に対する安全・安心の確保

東北ブロックは、四季折々の豊かな変化を楽しむことができる一方で、地震・津波、風水害、土砂災害及び豪雪等による自然災害が多発し、甚大な被害を受けてきた地域である。また、宮城県沖地震については近い将来、高い確率で発生が予測されているとともに、地球温暖化に伴う気候変動により災害リスクの高まりが予想されている。

##### (5) 都市と農山漁村の共生

東北ブロックでは、人口減少や高齢化が全国平均を上回るスピードで進んでおり、特に、農山漁村、離島・半島を中心に、将来は高齢化率が40%を超える市町村が多数生じると見込まれている。これにより、中心市街地の空洞化や集落の消滅危機、コミュニティの崩壊等、様々な問題が一層深刻化する恐れがある。

##### (6) 豊かな自然を生かした地域形成

東北ブロックには、豊かな自然環境と一体となった美しい農山漁村の風景や、悠久の歴史に支えられた伝統・文化等、美しく豊かな特色ある資源が存在する。一方で、耕作放棄地の増加や里地里山の荒廃も生じていることから、この美しい国土を適切に保全・活用し、後世に継承していくことが必要である。



## 1 II 東北ブロックの目指すべき将来の姿

2 東北ブロックの持つ優れたポテンシャルを活かしながら、人・物・情報の国内外との交流、連携  
3 を深め、低炭素社会の構築などの新たな時代の潮流に対応・貢献できる多様で自立した圏域を  
4 形成していく。

### 5 ①「地域の資源、特性を活かした産業による自立的・持続的な圏域」

6 地域の産業を支え、魅力ある安定した雇用機会を確保するため、自動車産業の次世代技術  
7 の集積による拠点等を形成し、付加価値を生み出すことのできる競争力のある産業の振興を  
8 図るとともに、豊かな自然に恵まれ高品質な農産物を生産できるポテンシャルを活かし、生産性の  
9 向上と販路拡大により、基幹産業である農業の収益力を高めていく必要がある。このため、圏  
10 域内外の主要都市や生産拠点等を結ぶ交通・情報通信ネットワークの構築、及び安定的な水  
11 資源の確保を図る。これにより、広域的な連携による、競争力を持つ産業群の形成、及びマー  
12 ケットへのアクセス改善による、多様な地域資源を活用した地域内発型産業の創出・振興を支  
13 援する。また、地球温暖化や国際化に対応しつつ、安全で安心な食料を安定して供給できる  
14 持続可能な農林水産業の振興に寄与する。さらに、二地域居住やIターンなどの新たな価値観  
15 やライフスタイルに対応した交流人口の拡大を通じて、若者から高齢者まで生き甲斐をもって  
16 働ける産業構造の構築を目指す。

17 このような地域間の連携交流を促進することにより自立的・持続的な成長を実現する圏域を  
18 創り上げる。

### 19 ②「交流・連携機能の強化による世界に開かれた圏域」

20 東北ブロックは日本海・太平洋の二つの大海に面していることを活かし、諸外国の活力を取  
21 り込み、世界に開かれた圏域を実現していくためには人・物・情報の交流を促進する必要があ  
22 る。

23 日本海地域と太平洋地域の連携を強化し、東アジア・ロシアや北米等との世界に開かれた  
24 国内外をネットワークする「環日本海・環太平洋ゲートウェイ」を開き、農作物、人材、技術力等、  
25 東北圏の地域資源を十分に活用し、沿岸部・内陸部が一体となった、国際競争力のある産業  
26 が集積する圏域を創り上げる。

### 27 ③「雪にも強く安全で安心して暮らせる温もりのある人に優しい圏域」

28 子供から高齢者の各世代の人々が、もてる力を十分に発揮し、いきいきと暮らしていくための  
29 ユニバーサル社会を実現するとともに、既存社会資本ストックを有効活用しながら、地震・津波、  
30 風水害、土砂災害及び豪雪等の自然災害に対する備えや、交通基盤の整備による地域医療  
31 の支援、生活圏内の公共交通等の確保及びコンパクトシティの形成等により、都市と農山漁村  
32 が共生し、温もりある人に優しい圏域を創り上げる。

### 33 ④「恵み豊かな自然と共生する環境先進圏域」

34 地域固有の伝統・文化や美しい国土を適切に保全し、後世に継承するとともに、その自然・  
35 環境・技術を活かし循環型社会を基盤においた低炭素社会を構築するために、豊かな自然環  
36 境を再生し、自然の恵みを有効に活用した地球温暖化防止等に貢献する環境先進圏域を創り  
37 上げる。

### 38 ⑤「東北の人々が一体となって地域を考え行動する圏域」

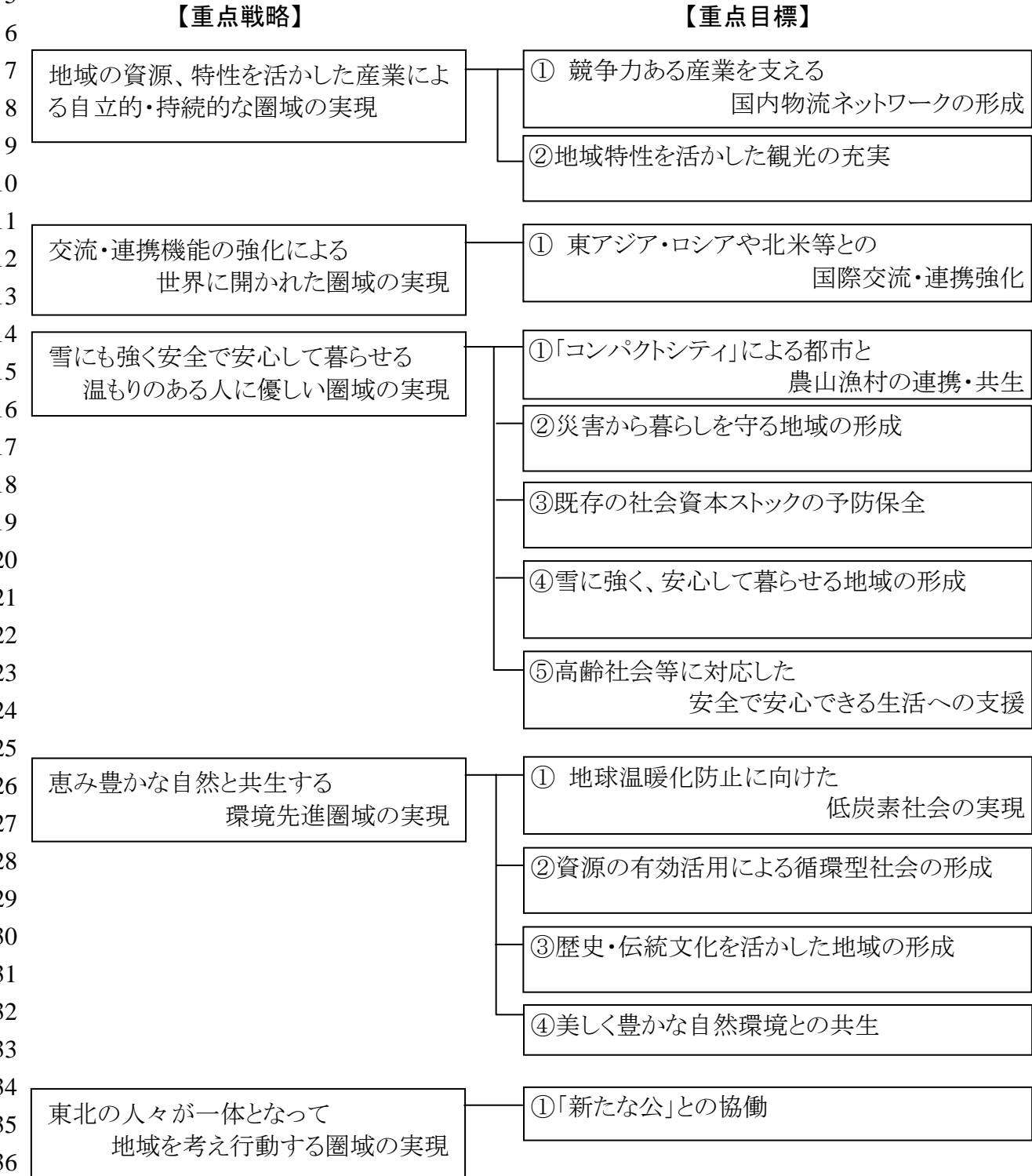
39 地域住民や、多様な価値観に基づき自発的な活動を行うNPO等団体、産業団体、行政等、

- 1 多彩な主体の連携・協働の推進による地域づくりの支援や、「住民参加」による計画手法を積
- 2 極的に取り入れた社会資本整備、既存ストック管理における地域の活力の活用等、「新たな
- 3 公」との協働を推進する。

1 III 東北ブロックにおける社会資本の重点事項

2 1. 地方重点戦略と地方重点目標

3 重点戦略毎に重点目標を設定し、関係する事業を適切に組み合わせ、目標管理を行  
4 いながら効果的かつ効率的に社会資本整備を進める。



1 2. 重点目標達成のための取り組み

2

3 重点戦略1 「地域の資源、特性を活かした産業による自立的・持続的な圏域の実現」

4 重点目標①「競争力ある産業を支える国内物流ネットワークの形成」

5 ・産業の活性化を支えるため、港湾・空港の整備、格子状骨格道路や高速鉄道ネットワーク等  
6 の整備とともに、体系的な人流・物流ネットワークの整備を推進する。

7 ・高速定時性を最大限に活かすため、空港、新幹線駅、高速道路 IC 等の高速交通拠点間の  
8 アクセス機能や結節機能の向上及び在来線の高速化を推進する。

9 ・既存の高速道路施設を効率的に活用し、スマートICの整備を推進する。

10 ・フェリーをはじめとした航行船舶の安全確保や輸送効率向上のため、港湾施設の整備を図  
11 る。

12 ・リサイクル産業の振興を図るため、資源の有効利用を目指した静脈物流システムを整備する。

13 ・水資源対策や水質保全対策等、農林水産業を支える社会資本の構築を推進する。

14 【指標(案)】

15 ・都市間における所要時間 【○分(H19)→○分(H24)】

16 ・ETC利用率 【○%(H19)→○%(H24)】

17 ・スマートIC整備箇所数 【5箇所(H19)→15箇所(H24)】

18 ・新たな水資源の確保量(調整中) 【○t(H19)→○t(H24)】

19 【主要事業(案)】

20

21 ■高規格幹線道路整備 【日本海沿岸東北自動車道(中条～朝日、温海～鶴岡、大館～小坂)、  
22 東北中央自動車道(13号新庄北道路)三陸縦貫自動車道(45号唐桑道路)、(45号宮古道路)、  
23 仙台東部道路、東北横断自動車道釜石秋田線(宮守～東和)】

24 ■地域高規格道路整備 【三陸北縦貫道路(45号中野バイパス)、盛岡秋田道路(46号角館バイパス)、  
25 宮古盛岡横断道路(106号築川道路)、宮城県北高速幹線道路((主)築館登米線・加倉～北方工区)、  
26 福島空港・あぶくま南道路((主)矢吹小野線・福島空港平田工区)、上越魚沼地域振興快速道路  
27 (上越三和道路、三和安塚道路、八箇峠道路)、長岡東西道路(404号長岡東西道路)】

28 ■高速交通拠点へのアクセス道路整備事業 【4号七戸バイパス、7号浪岡バイパス、13号上山バイパス、  
29 都市計画道路内環状線石江工区、及び石江2工区(青森県青森市)】

30 ■複合一貫輸送内貿ターミナル整備事業 【仙台塩釜港中野地区(宮城県仙台市)他】

31 ■多目的国際ターミナル整備事業  
32 【小名浜港東港地区(福島県いわき市)、直江津港東ふ頭地区(新潟県上越市)他】

33 ■国内物流ターミナル整備事業 【大船渡港永浜地区(岩手県大船渡市)他】

34 ■静脈物流拠点整備 【酒田港(山形県酒田市)、姫川港(新潟県糸魚川市)他】

35 ■臨港道路整備事業 【小名浜港東港地区(福島県いわき市)他】

36 ■防波堤整備事業 【秋田港外港地区(秋田県秋田市)他】

37 ■多目的ダム建設事業  
38 【津軽ダム(青森県西目屋村)、胆沢ダム(岩手県奥州市)、森吉山ダム(秋田県北秋田市)】

39

## 重点目標②「地域特性を活かした観光の充実」

- ・国内他地域との連携・交流を進めるため、効率的な輸送体系の構築を推進する。
- ・整備新幹線については、政府・与党申合せ等に基づき、着工区間の着実な整備を進める。
- ・観光産業の活性化に向け、交通ネットワークの整備や道の駅・みなとオアシス等の拠点整備、訪日外国人旅行者に対応した観光案内等、各種情報提供の充実を図る。

### 【指標(案)】

- ・外国人宿泊旅行者数(調整中) 【○人(H19)→○人(H24)】
- ・新幹線での観光来訪者数(調整中) 【○人(H19)→○人(H24)】
- ・観光宿泊客の満足度(調整中) 【 】
- ・良好な河川空間が新たに創出される面積 【-(H19)→1250ha(H24)】

### 【主要事業(案)】

- 高規格幹線道路整備 【日本海沿岸東北自動車道(中条～朝日、温海～鶴岡、大館～小坂)、東北中央自動車道(13号新庄北道路)、三陸縦貫自動車道(45号唐桑道路)、(45号宮古道路)、仙台東部道路、東北横断自動車道釜石秋田線(宮守～東和)】
- 地域高規格道路整備 【三陸北縦貫道路(45号中野バイパス)、盛岡秋田道路(46号角館バイパス)、宮古盛岡横断道路(106号築川道路)、宮城県北高速幹線道路((主)築館登米線・加倉～北方工区)、福島空港・あぶくま南道路((主)矢吹小野線・福島空港平田工区)、上越魚沼地域振興快速道路(上越三和道路、三和安塚道路、八箇峠道路)、長岡東西道路(404号長岡東西道路)】
- 整備新幹線 【東北新幹線八戸～新青森間延伸、北海道新幹線新青森～新函館間建設】
- 観光宿泊客の満足度調査(調整中) 【 】
- 総合水系環境整備事業(地域連携) 【大曲地区(秋田県大仙市)、朝日地区フットパス(山形県朝日町)、阿賀川佐野目地区(福島県湯川(ゆがわ)村)】

## 重点戦略2「交流・連携機能の強化による世界に開かれた圏域の実現」

### 重点目標①「東アジア・ロシアや北米等との国際交流・連携強化」

- ・産業競争力強化と資源の安定供給支援のため、物流機能の充実、臨海部の高度利用を図り、物流の効率化、コストの低減、安全性・安定性・信頼性向上を推進する。
- ・国際化に向けた、国際物流基幹ネットワークの形成や効率的な輸送体系の構築、物流拠点機能の強化を推進するとともに、国際観光交流を活性化する。

### 【指標(案)】

- ・国際コンテナ通行支障区解消率 【○%(H19)→○%(H24)】
- ・防波堤整備により新たに所要の静穏度が確保される岸壁数 【2施設(H19)→8施設(H24)】

### 【主要事業(案)】

- 高規格幹線道路整備 【常磐自動車道(富岡～相馬、山元～亘理)、(6号仙台東部道路)、(47号仙台北部道路)、日本海沿岸東北自動車道(中条～朝日、温海～鶴岡、大館～小坂)、東北中央自動車道(13号新庄北道路)、東北横断自動車道釜石秋田線(宮守～東和)】
- 港湾と自動車専用道路等とのアクセス道路整備 【6号常磐バイパス】
- 物流基幹ネットワークを支援する道路整備 【49号三和トンネル】
- 国際海上コンテナターミナル整備

1 【仙台塩釜港仙台港区向洋地区(宮城県仙台市)、新潟港東港区西ふ頭地区(新潟県新潟市)他】

2 ■多目的国際ターミナル整備事業

3 【小名浜港東港地区(福島県いわき市)、直江津港東ふ頭地区(新潟県上越市)他】

4 ■防波堤整備事業

【秋田港外港地区(秋田県秋田市)他】

5 ■航路泊地埋没対策

【八戸港河原木地区(青森県八戸市)他】

6 ■海上物流基盤の整備

【秋田港本港地区(秋田県秋田市)他】

7 ■臨港道路整備事業

【小名浜港東港(福島県いわき市)他】

8 ■輸出入・港湾関連手続きのワンストップサービスの推進

【港湾関連手続きのシングルウインドウ化】

10 **重点戦略3 「雪にも強く安全で安心して暮らせる温もりのある人に優しい圏域の実現」**

11 **重点目標①「コンパクトシティ」による都市と農山漁村の連携・共生**

12 ・コミュニティの維持再生のため、交通ネットワークとサービスの確保等を推進するとともに、公  
13 共交通機関の利便性向上、携帯電話等の不感地帯の解消等情報通信ネットワークの整備を  
14 推進する。

15 ・中心市街地活性化に向け、都市機能の集積や良好なまちなみ景観形成、病院・学校・福祉  
16 施設の街なかへの立地、商店街の再生、街なかへの居住を促進する。

17 ・車によらない街なか移動を支援するため、歩道や自転車道・駐輪場の整備を推進する。

18 ・快適で潤いのある生活を実現するため、水と緑に親しめる都市環境の形成と沿道環境の改善  
19 を推進する。

20 ・持続可能な中山間地域を実現するため、急傾斜地や土石流危険渓流等における集落の保  
21 全対策等を推進する。

22 ・地域の活性化に資する道の駅の付加価値化を支援する。

23 ・国土保全の観点から、建設企業が保有する人材・機材やノウハウ等を活用し、農業・林業等  
24 異業種と連携し、耕作放棄地対策等として支援する。

25 **【指標(案)】**

26 ・土地区画整理により良好な宅地等が形成される面積 【〇ha(H19)→〇ha(H24)】

27 ・市街地における都市計画道路の整備率 【〇%(H19)→〇%(H24)】

28 ・土砂災害から保全される人命保全上重要な施設数 【300施設(H19)→400施設(H24)】

29 ・ハザードマップを作成・公表し、防災訓練等を実施した市町村の割合(土砂)  
30 【土砂 10%(H19)→100%(H24)】

31 ・土砂災害特別警戒区域指定率 【47%(H19)→80%(H24)】

32 ・リアルタイム火山ハザードマップ整備率 【0%(H19)→40%(H24)】

33 **【主要事業(案)】**

34 ■市街地再開発事業 【仙台市花京院一丁目第一地区第一種市街地再開発事業(宮城県仙台市)】

35 ■暮らし・にぎわい再生事業 【十和田市官庁街通地区(青森県十和田市)】

36 ■土地区画整理事業

37 【仙台市あすと長町土地区画整理事業(宮城県仙台市)、十日町駅西地区(新潟県十日町市)他】

38 ■まちづくり交付金 【新幹線新青森駅・青森駅周辺地区駅前広場整備等(青森県青森市)、  
39 古町地区街なか交流センター整備等(新潟県新潟市)他】

- 1 ■電線共同溝整備 【都市計画道路弘前宮地線(青森県弘前市) 他】
- 2 ■交通結節点整備 【都市計画道路田町上荒川線駅前広場(福島県いわき市)】
- 3 ■連続立体交差事業 【JR仙石線(宮城県多賀城市)、JR新潟駅付近(新潟県新潟市)】
- 4 ■幹線道路、街路事業 【都市計画道路新潟鳥屋野線、都市計画道路新潟駅西線、
- 5 都市計画道路出来島上木戸線、都市計画道路駅南線、
- 6 都市計画道路弁天線(南口駅広)(新潟県新潟市)】
- 7 ■下水道事業(水循環再生) 【嶋堰せせらぎ緑道整備事業(山形県山形市) 他】
- 8 ■シビックコア地区計画推進 【鶴岡文化学術交流シビックコア地区計画(山形県鶴岡市)】
- 9 ■地下鉄整備事業 【仙台市地下鉄東西線(荒井～動物公園)】
- 10 ■コンパクトシティ形成と連携した鉄道駅新設 【青い森鉄道】
- 11 ■バイパスや現道拡幅による放射・環状道路等整備 【4号三本木古川拡幅、4号富谷大和拡幅、
- 12 4号土屋バイパス、7号弘前バイパス、46号盛岡西バイパス、112号鶴岡北改良、
- 13 都市計画道路北四番丁大衡線北山工区(宮城県仙台市)】
- 14 ■地域高規格道路整備
- 15 【郡山西環状道路(4号郡山バイパス)、会津縦貫北道路(121号会津縦貫北道路)】
- 16 ■高規格幹線道路整備 【常磐自動車道(山元～亘理、富岡～相馬、47号仙台北部道路)、
- 17 東北縦貫自動車道八戸線(45号上北道路)、東北横断自動車道釜石秋田線(宮守～東和)】
- 18 ■直轄特定緊急砂防事業 【栗駒山系(岩手県一関市・宮城県栗原市)】
- 19 ■砂防事業・地すべり対策事業
- 20 【山添地区(山形県酒田市)、芋川地区(新潟県長岡市、小地谷市、川口市、魚沼市)】
- 21

## 重点目標②「災害から暮らしを守る地域の形成」

- 23 ・大規模地震に備え、土木施設・建築物の耐震化、防災公園の整備、広域防災拠点やヘリ
- 24 ポートの整備、無電柱化、安全で信頼性の高い道路網や港湾・空港の整備、緊急河川敷道
- 25 路の整備を推進する。
- 26 ・津波被害の防止、軽減のため、防波堤、海岸堤防、高潮堤防の整備や津波避難場所の整備、
- 27 遠隔操作体制の整備、観測網の構築と情報伝達システムの整備を推進する。
- 28 ・風水害、土砂災害、高潮災害、火山噴火災害等による被害の防止及び減災を図るため、防
- 29 災施設について、ハザードマップの作成等のソフト対策とあわせた整備を推進する。
- 30 ・都市の防災対策を進めるため、輪中堤や既設堰の改築等による防災上危険な市街地の改善
- 31 や事業連携による多様な浸水対策等を推進する。
- 32 ・渇水時の農業等の生産被害軽減のためハード、ソフト対策を組み合わせた水資源確保対策
- 33 を推進する。
- 34 ・災害時に迅速な対応ができるよう、必要な災害対策用機械の配備を推進するとともに、ICTを
- 35 活用した情報基盤や観測機器の整備・予測技術の向上、人的連携など危機管理体制の充
- 36 実を推進する。

### 【指標(案)】

- 37
- 38 ・洪水による氾濫から守られる区域の割合 【○○%(H19)→○○%(H24)】
- 39 ・津波・高潮による浸水被害防護区域の拡大 【75%(H19)→78%(H24)】

1	・堤防強化対策により、破堤による浸水被害から守られる面積	【－(H19)→40,000ha(H24)】
2	・治水対策により氾濫から守られる穀倉地帯面積	【－(H19)→17,000ha(H24)】
3	・ハザードマップを作成・公表し、防災訓練等を実施した市町村の割合(洪水、津波、高潮)	
4		【洪水6%(H19)→100%(H24)】
5		【津波・高潮6割(H19)→9割(H24)】
6	・一定水準の防災機能を備えるオープンスペースが1カ所以上確保された大都市の割合	
7		【約33%(H19)→約35%(H24)】
8	・太平洋側において、河川を遡上する津波に対し、門扉操作の確実性を高めた水門等河川管理施設の割合	
9		【63%(H19)→100%(H24)】
10	・GPS波浪計による沖合波浪観測網の整備	【5基(H19)→7基(H24)】
11	・災害対策現地情報連絡員(リエゾン)協定市町村数	【○(H19)→○(H24)】
12	・TEC-FORCE 研修受講者数(調整中)	【－(H19)→○人(H24)】
13	・無人化施工機械導入数	【－(H19)→2台(H24)】
14	<b>【主要事業(案)】</b>	
15	■直轄河川改修事業	【一関遊水池(岩手県一関市)、藤塚地区(宮城県仙台市)】
16	■小坂川総合開発事業	【砂子沢ダム(秋田県鹿角郡)】
17	■多目的ダム建設事業	【長井ダム(山形県長井市)】
18	■河川改修事業	【郡山地区質的整備(福島県郡山市)】
19	■鉄道橋・道路橋緊急対策事業	【右支夏井川地区(福島県田村郡小野町)】
20	■河川災害等関連緊急事業	【信濃川下流(新潟県新潟市、加茂市、三条市、燕市、長岡市)】
21	■特定構造物改築事業	【大河津可動堰(新潟県長岡市、燕市)】
22	■直轄海岸保全施設整備事業	
23		【仙台湾南部海岸(宮城県岩沼市、山元町)、新潟海岸(新潟県新潟市)】
24	■高潮対策事業	【関田海岸(福島県いわき市)、宮古港海岸(岩手県宮古市)、
25		鱒ヶ沢漁港海岸(青森県鱒ヶ沢町)、野田農地海岸(岩手県野田村)他】
26	■海岸耐震対策緊急事業	【市川海岸(青森県八戸市)、長面漁港海岸(宮城県石巻市)他】
27	■津波・高潮危機管理対策緊急事業	
28		【嶋之越海岸(岩手県田野畑村)、大船渡海岸(岩手県大船渡市)、気仙沼漁港海岸(宮城県石巻市)他】
29	■沖合波浪観測網整備事業(GPS波浪計)	【太平洋側7基、日本海側3基】
30	■耐震強化岸壁等整備	
31		【相馬港3号埠頭地区(福島県新地町)、新潟港(新潟県新潟市)、小木港(新潟県佐渡市)他】
32	■耐震強化岸壁と一体的な防災緑地整備	【八戸港八太郎地区(青森県八戸市)他】
33	■湾口防波堤整備事業	【久慈港湾口地区(岩手県久慈市)他】
34	■避難港整備事業	【鼠ヶ関港平左浜地区(山形県鶴岡市)】
35	■空港耐震対策	【仙台空港(宮城県名取市、岩沼市)、新潟空港(新潟県新潟市)】
36	■住宅・建築物耐震改修等事業	【大館桂高校(秋田県大館市)】
37	■土地地区画整理事業	【仙台駅東第二土地地区画整理事業(宮城県仙台市) 他】
38	■都市防災総合推進事業	【(秋田県にほか市)】
39	■まちづくり交付金	【三輪地区地域防災施設整備等(秋田県羽後町)、



白河駅南地区地域防災施設整備等(福島県白河市) 他】

- 高規格幹線道路整備 【日本海沿岸東北自動車道(温海～鶴岡)、常磐自動車道(富岡～相馬、山元～亙理)、(47号仙台北部道路)、三陸縦貫自動車道(45号唐桑道路)】
- 地域高規格道路整備 【三陸北縦貫道路(45号中野バイパス)、(45号普代バイパス)】
- 共同溝整備 【45号仙台東部共同溝(原町)】
- 電線共同溝整備 【7号土崎港地区(秋田県秋田市)、【弘前宮地線(青森県弘前市)】
- 緊急輸送道路ネットワーク整備 【都市計画道路山形停車場松波線(山形県山形市)】
- 都市公園事業(避難地機能、広域的な拠点機能等を有する防災公園)  
【県立中央公園(秋田県秋田市)、東ヶ丘公園(福島県南相馬市)、  
長岡市民防災公園(新潟県長岡市)、上越総合運動公園(新潟県上越市) 他】
- 下水道事業(地震対策) 【仙塩流域下水道地震対策緊急整備事業(宮城県) 他】
- 下水道事業(浸水対策) 【八戸市河原木地区下水道総合浸水対策緊急事業(青森県八戸市) 他】
- 官庁施設耐震強化 【仙台第3地方合同庁舎(宮城県仙台市) 他】
- 鉄道軌道輸送高度化事業 【阿武隈急行 他】

### 重点目標③「既存の社会資本ストックの予防保全」

・人口減少と社会保障費の増大による投資余力の低下をふまえ、既存資産の有効活用を図るため、点検や予防保全による長寿命化を推進する。

#### 【指標(案)】

- ・河川管理施設の長寿命化率 【0%(H19)→100%(H24)】
- ・道路橋長寿命化修繕計画策定率(導入中) 【－(H19)→○%(H24)】

#### 【主要事業(案)】

- 多目的ダム建設事業 【長井ダム(山形県長井市)】
- 下水道事業(長寿命化) 【仙台市下水道長寿命化対策事業(宮城県仙台市) 他】

### 重点目標④「雪に強く、安心して暮らせる地域の形成」

・雪崩対策や克雪住宅の普及、冬期歩行空間の確保等、冬期バリアフリー対策を推進するとともに、消流雪用水の導入・除排雪機能を付加した河川や下水道の整備を進める。  
・冬期間の安全で円滑な交通サービスの確保を図るため、除雪機械の開発や雪関連技術開発を進める。  
・冬期の観光・交流等や地域間の交流・連携を促進するとともに、冬期観光拠点へのアクセシビリティの向上や道路除排雪の強化・推進とソフト対策の充実を図る。

#### 【指標(案)】

- ・冬期における歩行空間の確保率 【○%(H19)→○%(H24)】
- ・消流雪用水導入によって除排雪作業が軽減される人口 【70,600人(H19)→90,000人(H24)】

#### 【主要事業(案)】

- 消流雪用水導入事業 【岩木川鶴田地区(青森県鶴田町)】  
【雄物川上流湯沢地区(秋田県湯沢市)】
- 水害対策河川整備事業(消流雪用水導入事業) 【最上白川地区(山形県最上郡最上町)】

- 1 ■雪崩・地吹雪対策 【112号月山沢地区防雪対策】
- 2 ■凍結対策 【青森港本港地区(青森県青森市)】
- 3 ■地域住宅交付金(克雪対策) 【雪国定住促進(山形県尾花沢市)】
- 4 ■下水道事業(積雪対策) 【まちなかコミュニティ雪処理事業(青森県青森市) 他】

## 重点目標⑤「高齢社会等に対応した安全で安心できる生活への支援」

- 7 ・ユニバーサルデザインの導入や自転車・歩行者道整備、交差点改良等の交通安全対策、交通結節点の整備・公共交通機関の利便性向上等を推進する。
- 9 ・画像診断などによる遠隔医療を構築するため、光ファイバー網の整備を支援する。
- 10 ・鉄道や鉄道駅へのアクセス道路の整備を行うとともに、公共交通の利用促進にあわせて利便性向上のための事業を推進する。
- 12 ・第三次救急医療機関等中核医療施設への所要時間短縮に向けた道路網と高速道路等からの救急車退出路の整備、ドクターヘリによる防災拠点の活用等を推進する。

### 【指標(案)】

- 15 ・園路及び広場がバリアフリー化された都市公園の割合 【約38%(H19)→約5割(H24)】
- 16 ・特定道路におけるバリアフリー化率 【0%(H19)→0%(H24)】
- 17 ・鉄道駅におけるバリアフリー化率 【75%(H19)→100%(H24)】
- 18 ・道路交通における死傷事故率 【0件/億台km(H19)→0件/億台km(H24)】
- 19 ・救命救急センターに1時間で行ける人口 【0人(H19)→0人(H24)】

### 【主要事業(案)】

- 21 ■事故危険箇所解消 【13号飛森視距改良、4号稲荷町交差点改良 他】
- 22 ■通学路歩道整備 【45号折茂歩道新設、6号内郷歩道新設 他】
- 23 ■歩行空間バリアフリー化 【7号土崎歩道拡幅、8号糸魚川市長浜自歩道 他】
- 24 ■自転車利用環境整備 【13号平和通自転車道新設 他】
- 25 ■公営住宅ストック総合改善事業 【県営梅が丘住宅(福島県)】
- 26 ■まちづくり交付金 【JR岩沼駅周辺地区、JR最上駅周辺地区、JR新潟駅周辺地区、JR白山駅周辺地区 他】
- 28 ■都市公園事業(バリアフリー化支援事業) 【(秋田県秋田市) 他】
- 29 ■可動式ホーム柵導入 【仙台市地下鉄南北線】
- 30 ■地域公共交通活性化・再生総合事業 【三陸鉄道、秋田内陸縦貫鉄道 他】
- 31 ■高規格幹線道路整備 【日本海沿岸東北自動車道(中条～朝日、温海～鶴岡、大館～小坂、八戸・久慈自動車道(45号八戸南環状道路)】
- 33 ■地域高規格道路整備 【下北半島縦貫道路(279号有戸北バイパス)】

## 重点戦略4「恵み豊かな自然と共生する環境先進圏域の実現」

### 重点目標①「地球温暖化防止に向けた低炭素社会の実現」

- 38 ・地球温暖化防止のため、バイオマス、太陽光、水力等を利用した新エネルギー等の積極的な導入、及び渋滞対策やモーダルシフトによるCO<sub>2</sub>削減対策を推進する。

1 ・都市圏の交通の円滑化、環境の改善を図るため、道路交通渋滞対策や都市鉄道の整備を  
2 推進する。

### 3 【指標(案)】

4 ・道路におけるCO<sub>2</sub>排出量(調整中) 【〇t(H19)→〇t(H24)】

5 ・道路渋滞による一人当たりの年間損失時間(調整中) 【〇h(H19)→〇h(H24)】

6 ・廃棄物海面処分場の護岸の整備延長 【1,500km(H19)→2,000km(H24)】

### 7 【主要事業(案)】

8 ■民間住宅への環境・省エネ支援事業 【宮城県加美町】

9 ■CO<sub>2</sub>削減アクションプログラム 【都市計画道路上山山形西天童線(山形県山形市)】

10 ■グリーン庁舎整備 【盛岡第2地方合同庁舎(岩手県盛岡市) 他】

11 ■多目的ダム建設事業  
12 【津軽ダム(青森県西目屋村)、胆沢ダム(岩手県奥州市)、森吉山ダム(秋田県北秋田市)】

13 ■地域高規格道路整備 【郡山西環状道路(4号郡山バイパス)】

14 ■バイパスや現道拡幅整備

15 ■放射・環状道路等整備 【13号福島西道路、46号盛岡西バイパス】

16 ■複合一貫輸送内貿ターミナル整備事業 【仙台塩釜港中野地区(宮城県仙台市)他】

## 18 重点目標②「資源の有効活用による循環型社会の形成」

19 ・健全な水循環の確保のため、貴重な水資源の保全・開発・有効活用を推進する。

20 ・社会資本整備等において、建設廃棄物の発生抑制、廃棄物の再資源化、建設発生土の有  
21 効利用など徹底したリサイクルを推進する。

22 ・リサイクル産業の拠点化と東北とアジア等を結ぶ静脈物流ネットワークを構築するためにリサ  
23 イクルポートの整備を図る。

24 ・クリーンエネルギーを活用したストック管理を推進する。

### 25 【指標(案)】

26 ・建設廃棄物の再資源化率(建設残土)(調整中) 【〇%(H19)→〇%(H24)】

27 ・建設廃棄物の再資源化率(コンクリート塊)(調整中) 【〇%(H19)→〇%(H24)】

28 ・建設廃棄物の再資源化率(建設汚泥)(調整中) 【〇%(H19)→〇%(H24)】

29 ・建設廃棄物の再資源化率(建設発生木材)(調整中) 【〇%(H19)→〇%(H24)】

### 30 【主要事業(案)】

31 ■静脈物流拠点整備 【能代港(秋田県能代市)、酒田港(山形県酒田市)、姫川港(新潟県糸魚川市)他】

32 ■廃棄物海面処分場整備 【小名浜港東港地区(福島県いわき市)、新潟港(新潟県新潟市)他】

33 ■多目的ダム建設事業  
34 【津軽ダム(青森県西目屋村)、胆沢ダム(岩手県奥州市)、森吉山ダム(秋田県北秋田市)】

## 36 重点目標③「歴史・伝統文化を活かした地域の形成」

37 ・東北ブロックの豊かな自然・歴史・文化などを実感できる個性的なまちづくりや風景保全・景  
38 観形成、交流拠点の整備や景観計画等にもとづく取り組みを支援する。

39 ・歴史まちづくりに関する各種支援制度により、地域固有の歴史・伝統を反映した人々の活動

や、歴史上価値の高い建造物、良好な市街地等の維持・向上、後世への継承を図る。

#### 【指標(案)】

・景観計画に基づき取組を進める地域の数 【8市町村(H19)→40市町村(H24)】

#### 【主要事業(案)】

- 総合水系環境整備事業(地域連携) 【大曲地区(秋田県大仙市)、朝日地区フットパス(山形県朝日町)、阿賀川佐野目地区(福島県湯川(ゆがわ)村)】
- 街なみ環境整備事業 【美郷町六郷中央地区(秋田県美郷町)】
- まちづくり交付金 【盛岡城跡公園周辺地区歴史文化施設整備等(岩手県盛岡市) 他】
- 景観形成推進総合事業 【青山地区(岩手県盛岡市)】
- 都市公園事業(自然再生緑地) 【いちょう公園(青森県おいらせ町) 他】
- 都市公園事業(歴史的環境形成) 【鷹揚公園(青森県弘前市)】
- 国営公園整備事業 【国営みちのく杜の湖畔公園(宮城県川崎町)】

### 重点目標④「美しく豊かな自然環境との共生」

- ・生態系の保全・再生等に配慮し、自然との共生・調和を目指した社会資本整備を推進する。
- ・自然の豊かさを実現できるよう、流域環境・海域環境の保全及び改善を図る。
- ・健全な水循環系の確保を目指し、水質の保全や流況の改善を図る。
- ・地域の特性を活かした、利用しやすい親水空間の整備を推進する。

#### 【指標(案)】

- ・下水道処理人口普及率 【59%(H19)→〇%(H24)】
- ・歩いて行ける緑のネットワーク率 【〇%(H19)→〇%(H24)】

#### 【主要事業(案)】

- 総合水系環境整備事業 【馬淵川魚がすみやすい川づくり(青森県八戸市)、北上川上流自然再生(岩手県北上市)、北上川下流魚がすみやすい川づくり(宮城県登米市)】
- 港湾緑地整備 【八戸港河原木地区(青森県八戸市)、新潟港(新潟県新潟市、聖籠町) 他】
- 都市公園事業(自然再生緑地) 【いちょう公園(青森県おいらせ町) 他】
- 下水道事業(流域下水道、公共下水道) 【北上川上流流域下水道事業 他】
- 下水道事業(合流式下水道改善) 【盛岡市合流式下水道緊急改善事業、新潟県新潟市 他】

### 重点戦略5 「東北の人々が一体となって地域を考え行動する圏域の実現」

#### 重点目標①「新たな公」との協働

- ・生活を支える地域の足の確保や、地域防災体制の充実、高齢化が進む地域における除排雪体制の整備等、多様な課題に対応するため、地域住民やNPO、団体、行政など多様な主体の協働を積極的に推進し、地域づくり活動を支援していく
- ・事業に関する情報公開やアカウントビリティの向上を図るとともに、「住民参加」による計画手法を積極的に取り入れて社会資本整備を実施していく
- ・公共施設等の維持、管理及び運営について、指定管理者制度を活用するなど、多様な主体と行政による協働の取組により、公共施設等の有効活用を図る
- ・東北コンソーシアム協議会等による、多様な主体の連携による中山間地等の活性化を支援す

1        るシンクタンクの検討を行う

2        **【主要事業(案)】**

3        ■河川維持修繕事業

【岩木川における河川法第 99 条に基づく協議による堤防除草委託

4

(青森県五所川原市、つがる市、中泊町、鶴田町)】

5        ■道路維持修繕事業

【ボランティアサポートプログラム】